

## 構法技術部会・エグゼクティブサマリー

部会長 清家 剛（東京大学大学院准教授）

### 1 部会活動の概要

構法技術部会では、LCCM住宅の実現に必要な、構法、材料、設備に関して、先導的技術を中心とした情報収集を行い、類型化することで、主としてLCCMを指向した住宅設計を支援することを目的とし、活動を行っている。その中で、平成21年度は、設計部会のLCCM住宅実設計支援と、LCCM住宅以降の技術普及を念頭においた各種技術の類型化を行い、データベースの雛形を提示した。しかしながら、現時点では、LCCM住宅に適用されることが想定される構法、材料、設備のCO2排出量などに関する情報は十分とは言えず、LCCM住宅を適切に評価するためには、LCCM住宅に用いられるであろう各種技術に関する情報整備が課題である。また、LCCM住宅の設計においては、基本設計時点で得られる情報は限られており、設計時点での評価と実際に建設される実物件の評価との関係を明確にする必要がある。そこで平成22年度は、これまでの活動に加え、構法、材料、設備の観点からの実証的検討を目的として、LCCM住宅デモンストレーション棟の建設時等LCC02など、実態調査を実施した。平成23年度は、デモンストレーション棟の実態調査に基づいて、データの精査と分析を行い、LCCM住宅の建設時の環境負荷に関してとりまとめた。

平成24年度については、LCCM住宅建設にともなう様々な要素技術についての情報の整理を検討したが、未だそれぞれの技術に関する情報が整っていないと判断し、必要に応じて技術的な情報整理は行うこととしたが、具体的な成果としてのとりまとめは行わなかった。